

「八日市大凧保存会」

八日市大凧会館：鳥居勝久

1) 東日本大震災によって、活動に何か影響がありましたか？

毎年5月最終日曜日に100畳敷八日市大凧を舞い揚げる「八日市大凧まつり」を開催しています。

3月11日のあと「八日市大凧まつり」のイベント開催の是非が協議されたが、伝統的に世相を反映して「願い」や「祈り」を大凧に託して大凧揚げを行ってきているので、今回の大災害を受けて、復興を応援する大凧揚げを実施する方向で開催が決定されました。

2) 震災地域への支援について、既に実施したことや今後の予定、やりたいことなどがありましたら、お書きください。

6月5日（日）の八日市大凧まつりに飛揚する100畳大凧の裏側に復興を応援する「願い札」を貼り付けることとし、1枚500円で販売して義援金にあてるることとしました。

この大凧に貼り付ける「願い札」を三年間続けることとし、大きな金額にはならないかも知れないが、継続することで被災地でない我々が応援する気持ちを忘れないようにすることとしました。

3) 被災地域で文化活動に関わる方へメッセージがありましたらお寄せください。

私どもの大凧の伝統文化も第二次世界大戦で一度途絶えております。目の前の荒れはてた状況では、文化なんて力のないものと感じます。しかし、必ず「もう一度」という思いが出てくるはずです。その思いが人を動かす力となり、さらに活力につながっていく信じております。